

平成 29 年度子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） の評価に関する実施要領

1. はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）は、国の予算を用いて実施される長期・大規模の疫学調査であり、その実施に当たっては、科学的、第三者的な観点からの評価を行うことが不可欠である。

エコチル調査においては、調査の実施に関する企画立案及び評価を行うため、外部の専門家からなる企画評価委員会を環境省に設置しており、同委員会において、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、エコチル調査の評価を実施することとする。

エコチル調査は、環境省が企画し、コアセンター（国立環境研究所）が実施主体となって、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）及びユニットセンターとの協働により実施しており、エコチル調査の実施状況の評価についても、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施されることとなる。本委員会では、こうした評価体系の中で、環境省及び実施機関が一体となった事業として、エコチル調査全体について、第三者的な観点からの評価を行うこととする。

2. 評価のスケジュール

現行の研究計画書においては、エコチル調査の実施期間は、平成 23 年 1 月から平成 44 年度まで（3 年間の参加者募集登録（リクルート）期間、13 年間の追跡（フォローアップ）期間、5 年間の解析期間）とされており、長期間にわたる事業であることから、社会情勢の変化や目標の達成状況等を把握し、必要に応じて改善を行うための自己点検及び評価を毎年度実施する。また、調査の進捗状況に応じて複数回の中間評価を行い、事業終了後に最終評価を行う。

評価のスケジュールについては、今後さらに検討することとするが、概ね以下のようなスケジュールが考えられる。

<評価のスケジュール>

年度	年次評価	中間評価	主な評価内容
23	●		—
24		●	リクルート 2 年目の状況を踏まえ、リクルートの終了及び初期のフォローアップに向けた評価を行う。
25	●		—
26		●	フォローアップ初期の状況を踏まえ、長期的なフォローアップに向けた評価を行う。
27	●		—
28	●		—
29	●		—
30		●	6 歳頃までのフォローアップの状況を踏まえ、学童期のフォローアップに向けた評価を行う。
31	●		—

年度	年次評価	中間評価	主な評価内容
32	●		—
33	●		—
34	●		—
35		●	フォローアップ終盤の状況を踏まえ、フォローアップの終了に向けた評価を行う。
36	●		—
37	●		—
38	●		—
39	●		—
40		●	フォローアップの終了を踏まえ、調査結果の取りまとめに向けた評価を行う。
41	●		—
42	●		—
43	●		—
44	●		—
45	最終評価		事業全体の成果について最終的な評価を行う。

3. 評価の視点

環境省研究開発評価指針（平成 21 年 8 月 28 日 総合環境政策局長決定）では、環境省の研究開発事業について、事前評価、中間評価、事後評価等を通じて評価を行うべき項目及び基準として、以下のように記載されている。

「評価は、必要性、効率性、有効性の観点の下、研究開発課題の特性に応じて、適切な評価項目及び評価基準を設定し実施する。

評価項目としては、例えば、「必要性」については、環境行政上の意義（環境問題の解明・解決、環境政策・施策の企画立案・実施等におけるニーズへの適合性）、科学的・技術的意義（独創性、革新性、先導性、発展性等）等が、「効率性」については、計画・実施体制の妥当性、目標・達成管理の妥当性、費用構造や費用対効果の妥当性、研究開発の手段やアプローチの妥当性等が、「有効性」については、環境問題の解明・解決、環境政策・施策の企画立案・実施等に対する効果等が挙げられる。

また、評価基準については、設定された各評価項目についての判断の根拠があいまいにならないよう、あらかじめ明確に設定する。」

さらに、同指針では、評価時期ごとに、評価結果の活用方法として、以下のよう

「研究開発実施・推進部局は、研究開発課題の評価結果を、予算、人材等の資源配分への反映、研究開発の質の向上のための助言、研究開発施策等の企画立案やその効果的・効率的な推進に活用する。

評価結果の具体的活用の例としては、評価時期別に、

- ・ 事前評価では、採択・不採択又は計画変更、優れた研究開発体制の構築等
- ・ 中間評価では、進捗度の点検と目標管理、方向転換、運営の改善、研究開発の質の向上、研究者の意欲喚起等
- ・ 事後評価では、計画の目的や目標の達成・未達成の確認、実施者又はその

代表者の責任の明確化、国民への説明、結果のデータベース化や以後の評価での活用、次の段階の研究開発の企画・実施、次の政策・施策形成への活用等

- ・ 追跡評価では、効果や波及効果の確認、国民への説明、関連する研究開発施策等の見直し（過去の評価の妥当性の検証を含む）等が挙げられる。」

4. 評価の進め方

- 1) 企画評価委員会の下に評価ワーキンググループを設置する。
- 2) 環境省、コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンターそれぞれが、上記の評価視点に関連する自己点検を実施して、収集した情報を環境省に提供する。
- 3) 環境省が、コアセンター、メディカルサポートセンター及びユニットセンターの実地調査を行い、上記の評価視点に関連する情報をさらに収集する。なお、メディカルサポートセンター及びユニットセンターの実地調査には、コアセンターも同席する。
- 4) 評価ワーキンググループにおいて環境省、コアセンター、メディカルサポートセンターのヒアリングを行うとともに、環境省より実地調査の報告を受け、評価書（案）を作成する。
- 5) 企画評価委員会において、評価書（案）の審議を行い、評価書を取りまとめる。

5. 結果の取扱い

評価結果は、調査計画・運営実施の改善、予算等の資源配分への反映等に活用するとともに、国民への説明責任を果たすため、これらの活用状況も含め評価結果等を公表する。

平成 29 年度エコチル調査の評価に関する方針

1. 評価の視点

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の評価に関する実施要領」を踏まえ、平成 29 年度年次評価においては、フォローアップ・詳細調査の進捗度の点検と目標管理、個人情報を含むデータ利用の安全性確保、運営の改善、研究開発の質の向上等の観点から、以下の視点で評価を行うこととする。

- 調査実施のための組織体制の妥当性
- フォローアップの進捗状況等
- 長期的なフォローアップの準備状況
- 詳細調査の実施状況
- 個人情報管理の状況
- データ利用及び成果発表のルールの順守状況
- 研究（追加調査等）の体制及び実績※
- 調査結果に関する広報活動の状況※
- その他（平成 28 年度年次評価書を受けての取組状況に対する改善状況）

※今後（平成 30 年以降）、分析を進めて研究成果の社会還元を推進する時期に本格的に入っていくこととなることから、エコチル調査全体として学術的成果について情報収集の上、評価していく。ユニットセンターの取組については、社会への還元として、エコチル調査の成果等、子どもの健康と環境についての情報を発信するイベントへの参加者数といったアウトリーチ活動を主に評価していく。

2. 評価ワーキンググループ委員

氏名	所属
井口 泰泉	横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 客員教授
田中 政信	日本産婦人科医会 顧問
麦島 秀雄	日本小児科学会
村田 勝敬	秋田大学大学院医学系研究科環境保健学講座 教授
内山 巖雄 (オブザーバー)	京都大学 名誉教授

3. 年次評価のための自己点検において収集すべき情報

3-1 環境省

1	実施体制	実施体制について	
		環境省が設置する委員会委員会について	
2	予算	予算状況について	
3	企画評価	企画評価委員会における審議 エコチル調査実施機関の評価	
4	国際連携	国際連携に関する取組状況	国際シンポジウムの開催状況 国際ワークショップの開催状況 大規模出生コホート調査に関する国際作業グループの活動状況 国際学会等への専門家派遣 小児環境保健分野の研究者育成
5	エコチル調査の成果の社会への還元	コアセンター、ユニットセンター等のエコチル調査の研究成果の社会への還元の取組状況	一般般への広報 シンポジウム・イベントや新聞・雑誌等を通じての概説 学会での発表や学術論文等
6	広報活動	広報活動に関する取組状況	シンポジウムの開催 プレスリリースの実施（予定） 広報戦略指針及び今後の方針の策定ホームページの改定に向けた取組 広報活動の効果測定と評価
7	倫理的事項	倫理審査の状況について	

3-2 コアセンター

1	実施体制	コアセンターの組織図	職種、専門分野等（エコチル雇用、雇用形態、（常勤/非常勤）、勤務時間数、エコチル調査における役割及び具体的業務内容）
		コアセンター主催会議	委員名簿（座長には印）
		コアセンターにおける研究体制	責任者、統計解析責任者、従事者、研究体制図
2	エコチル調査の成果の社会への還元	研究体制について	
		成果の社会への還元の取組状況	一般般への広報 シンポジウム・イベントや新聞・雑誌等を通じての概説 学会での発表や学術論文等
		成果発表ルール	ユニットセンター等に周知するための取組状況
3	年次評価を受けての取組状況	H28 年度年次評価を受けての取組状況	
4	全体調査	・調査の進捗状況に合わせた検討スケジュールと検討事項の達成状況 ・8 歳児調査の現状と課題	今後 11 年間の検討事項のスケジュールとその達成状況
5	フォローアップ （コアセンターの業務範囲）	参加者ステイタス、質問票回収率・生体試料回収数（ユニット別集計）（直近の会議で提示されているデータを使用）	これまでの状況の概要説明、協力取りやめ等の原因分析等
		フォローアップ率向上、維持のための工夫	長期的なフォローアップに対する検討事項、改善内容、ユニットに対する具体的なアドバイス等
6	詳細調査 （コアセンターの業務範囲）	エコチル調査の進捗状況に合わせた検討スケジュール、検討状況・準備状況	
7	化学分析	試料の保存	現在及び今後の状況
		化学分析	現在及び今後の状況
8	追加調査	追加調査の進捗状況	
9	予算執行	予算の効率的執行に向けた取組状況	
10	スタッフ研修	コアセンター内、ユニットセンターへの研修の状況	
11	個人情報管理	コアセンターやユニットセンターの個人情報管理の運用状況（と改善事項）	① ユニットセンターの個人情報管理の運用状況（事故防止策などの観点も含めて）
			② コアセンターの個人情報管理の運用状況
12	情報セキュリティー	コアセンターやユニットセンターの情報セキュリティーの運用状況（と改善事項）	① ユニットセンターの情報セキュリティーの運用状況（事故防止策などの観点も含めて）
			② コアセンターの情報セキュリティーの運用状況
13	結果返却について	現状と課題	結果返却の進捗・今後の予定、返却者の反応、改善点
14	データ入力精度管理	データ入力精度を向上させるための具体的な取組	データクリーニングの状況（ユニット別）、ユニットセンターへの指示方法案等

3-3 メディカルサポートセンター

1	実施体制	メディカルサポートセンターの組織図	職種、専門分野等（エコチル雇用、雇用形態、（常勤/非常勤）、勤務時間数、エコチル調査における役割及び具体的業務内容）
		メディカルサポートセンター主催会議	委員名簿（座長には印）及び検討等の進捗状況
2	エコチル調査の成果の社会への還元	研究体制	分野別（責任者、統計解析責任者、従事者、研究体制図）
		成果の社会への還元の取組状況	一般般への広報 シンポジウム・イベントや新聞・雑誌等を通じての概説 学会での発表や学術論文等
		成果発表	ルールの周知方法、発表体制等
3	年次評価を受けての取組状況	H28 年度年次評価を受けての取組状況	
4	全体調査	1) エコチル調査の進捗状況に合わせた検討スケジュール	検討状況
		2) 検討の達成状況	達成状況
5	詳細調査（メディカルサポートセンターの業務範囲）	1) エコチル調査の進捗状況に合わせた検討スケジュール	検討状況
		2) 検討の達成状況	達成状況
		3) 結果返却対応	ユニットセンターからの問い合わせ対応体制等
6	スタッフ研修	メディカルサポートセンター内 ユニットセンターへの研修の状況	
7	個人情報管理の状況	個人情報管理の状況	実施状況
8	情報セキュリティー	情報セキュリティーの状況について	

3-4 ユニットセンター

1	実施体制①	ユニットセンターの組織図	職種、専門分野、エコチル調査における役割
		地域運営協議会参加メンバー	関係機関名（自治体、協力医療機関等） 連携内容（実績と今後の予定）
		地域運営協議会開催状況	メンバー、日程、概要
	実施体制②	教員	人数と職種、週平均の業務時間数（年度別）
		事務職員	人数、雇用形態（年度別）
		リサーチコーディネーター	人数、雇用形態、業務内容（年度別）
		今後の実施体制について	
2	年次評価書を受けての取組状況	平成28年度年次評価を受けての取組状況	
3	フォローアップ 質問票	質問票回収状況	質問票の回収率 返送依頼方法 質問票のデータ登録
	参加者コミュニケーション	参加者のモチベーション向上に関する取組について	
	現参加者について	現参加者数（暫定数） 管理状況	適切な登録、追跡の実施の有無等
4	エコチル調査の 成果の社会への 還元	成果の社会への還元の取組状況	一般般への広報 <u>シンポジウム・イベント</u> ※や新聞・雑誌等を通じての概説等
		(再掲)シンポジウム・イベント	対象 内容 目的 集客人数
		研究体制について	
		成果発表に関する基本ルール の遵守状況	ルールの周知方法、発表体制等
5	詳細調査 実施体制	詳細調査に係るメンバーの組織図	職種と役割
		実施状況	内容
	参加者への結果 返却対応	体制（各組織での）	職種、役割、内容
		進捗状況	状況
6	個人情報管理	個人情報管理の状況	実施状況
7	情報セキュリ ティー	ユニットセンターで使用しているPCにおけるウイルス対策等について	
8	研修	スタッフ研修状況	頻度、内容

4. 平成 29 年度年次評価実施スケジュール及び実施フロー

